

平成24年度 第1回 食の循環によるまちづくり推進委員会 議事録

日 時：平成24年6月11日（月）午後3時00分～午後5時30分

会 場：新発田市豊浦庁舎 2階大会議室

参集者：25名

出席委員	下條荘市委員、佐藤ミネ委員、広岡信行委員、高橋聖治委員、栗山健一氏（中村光昭委員代理）、山田隆生委員、藤田健委員、高山廣伸委員、金田一努委員、菅野昭洋氏（引原美穂委員代理）、肥田野由美委員、宮野久美子委員、吉川治男委員、宮島隆行委員、高橋賢司委員、神田智成委員、川本健太郎委員、津村賢委員、赤塚昌子委員、星野龍一委員、関根暁子委員、長井課長補佐（川瀬孝男委員代理）、肥田野直子委員、小野伸子委員、長谷川副参事（菅一義委員代理） （欠席委員） 石井寛史委員、斉藤幸子委員、渡邊栄子委員、西鉄幹委員、木戸寿明委員、成澤強委員、南日厚子委員、目黒武志委員、佐藤恭子委員、小竹英之委員、小林豊男委員、山口恵子委員、山崎葉子委員
アドバイザー	新潟医療福祉大学 健康科学部 村山伸子教授
事務局	塚野教育長、新保教育部長、高橋食育推進課長、櫻井参事、食育推進課 食の循環によるまちづくり係（中山係長、土田主事）、食育推進課 食育推進係（小林係長）

1 開会

2 あいさつ

・塚野教育長あいさつ

3 議事

（1）推進委員会について

【事務局】

（資料「食の循環によるまちづくり推進計画概要版」）

（資料P1「食の循環によるまちづくり推進委員会規約」）

（資料P2「食の循環によるまちづくり推進委員会委員名簿」）に基づき説明

（2）委員紹介について

【事務局】

本日は初顔合わせということで委員の皆さんから自己紹介願いたい。予め自己紹介あるいは事業者、団体の自己紹介、食の取組等について別冊にまとめてあるので、これに目を通しながら、名簿にそって1人1分以内でお願いしたい。

【A委員】

前任の嶋谷さんと交代して出席している。よろしくお願ひしたい。

【B委員】

前回は引き続きやらせていただく。

【C委員代理】

2年間頑張るのでよろしくお願ひしたい。

【D委員】

今年から参加させていただく。農業高校ではブランド商品ということで、3年前から越後姫ジャム等のブランド商品の開発や、特別栽培米の生産・販売等の取組をしている。加工品、それぞれ地元のもを主体に作っている。最近農家の方が高齡になってきて材料が集まらない。材料を確保したいと考えている。そういうものをネスパスや表参道、東京に三年間ほど販売してきた。昨年は伊勢丹で販売した。今後もこのような活動をしていきたい。

【E委員】

今年から参加している。商業高校では同じく約3年前からアスパラガスを使ったパンを生産し、共同開発として販売している。今年度も空き店舗による販売実習を考えているが、また分からない点はご協力をお願ひしたい。

【F委員代理】

本日代理であるが、よろしくお願ひしたい。

【G委員】

よろしくお願ひしたい。

【H委員】

昨年、一昨年に続き、そのまま継続ということで参加。今年もよろしくお願ひしたい。

【I委員】

健康推進課では健康と生きがいの増進という二つの柱を市民の皆さんと一緒に健康づくり全般に取り組んでいる。食については、平成21年度に市民健康栄養事態調査を実施し、その結果に基づき、野菜を食べよう、お塩を減らそう等について精力的に事業を進めている。またよろしくお願ひしたい。

【J委員】

前任の方と交代し、今年度より初めてとなるがよろしくお願ひしたい。

【K委員代理】

食の関係は、園児にとって非常にいい教育。食物を作りながら、育てながら、どれ一つとっても非常に良い教育の材料である。これからも推進していきたい。

【L委員】

今年から委員として参加させていただく。食の循環によるまちづくり、大変に良い取組だと考える。この委員となり、皆さんとともに教えていただきながら、企業にかえり、できることはしていきたいと思っている。

【M委員】

2年間よろしくお願ひしたい。初めてで分からないこともあると思うが、よろしくお願

いしたい。

【N委員】

昨年度からお世話になっている。こども課では、子育て支援、幼稚園・保育園の関係ということで、特に幼稚園・保育園の方で教育委員会と連携して、新発田っ子プランに一生懸命取り組んでいる。特に保育園の方では給食に、各園で作っている野菜を利用した給食を提供したり、調理実習をしたりと一生懸命取り組んでいる。よろしくお願ひしたい。

【O委員】

今年からお世話になる。東新町4丁目では、生ごみの分別収集をやっている。今年で3年目になるが、東新町全体に広がったところでピタッと止まっているのが、非常に不満。やるまでは問題があったが、やってしまえば非常にやって良かったとなっている。もっともっと全市に広げるよう、新発田市として取り組んでもらいたいと、強い気持ちを代表してきた。

【P委員】

農業士会は若手の農家・後継者の集まりであり、その中の活動として、親子で収穫体験ということで、色んなものを収穫してもらっている。去年も私の家のハウスでミニトマトや小松菜など収穫してもらい、色々とお話を聞けたのでとても楽しかった経験がある。いろいろと関わっていきたくて考えているのでよろしくお願ひしたい。

【Q委員】

食と大きな接点の「調理」というところで活躍させてもらっている。こういった分野で多方面の皆様方と交流させていただき、食あるいは調理に関してますます活動を広めていければと思っている。

【R委員代理】

環境衛生課では、食の循環関連として、家庭生ごみ堆肥化推進事業と、食の循環しばたモットイナイ運動の2つを主管課として精力的に進めている。お手元の資料のモットイナイ運動のパンフレットで、協力店が100店舗を超えたということで、6月15日に広報しばたと一緒に全戸配布する。このパンフレットで協力店の皆さんの頑張りが見えるし、どういった運動をしているのかということを知ってもらいたい。モットイナイという意識があってもなかなか行動に移せないという現状だと思うが、行動に移してもらえよう、パンフレットもそうだが、これからも様々なPRをしていきたい。

【S委員】

今回初めて参加させていただく。広い意味でのまちづくりを勉強させていただきたい。

【T委員】

パンフレットの最後にあるまちカフェリンクに担当として関わらせていただく。まちカフェリンクは、学生の教育の場だけでなく、このような食の専門の方に使っていただき、実験的な店舗として販売等していただきたい。つながりを作っていければと思う。

【U委員】

主な活動として、食の循環を体験ということで、有機の里をはじめ市の施設がたくさんあるので農業体験を行っている。最近だと、笹団子作り体験や、市の新採用の方の田植え体験、その他子どもたちの農業体験等もたくさんやっている。皆さんにお知恵をいただき

やっていきたい。

【V委員】

前回から参加している。当たり前前かが当たり前前されていない現実に気づかせてもらい、勉強になった。ここで勉強させてもらったことを、公私にわたり活用させてもらいたいと思う。

【W委員】

市民からということで、農業をやっている。

【X委員】

市民という形で出席している。前回からお世話になっている。よろしくお願ひしたい。

【Y委員】

昨年からお寺の台所で講師等を招いて、料理教室を月に1、2回開いている。おいしい料理の作り方のほかに、食材を大事に扱う方法など、皆さんと食に関して関心を深めていけたらと思う。

【事務局】

規約のとおり2年間の任期となっている。他の委員の活動等、情報交換しながらそれぞれの活動に活かし、市全体を盛り上げていただきたい。

今回は、当市の食の循環の取組についてご指導いただいている新潟医療福祉大学の村山教授にも出席していただいている。この委員会に期待するものを一言お願ひしたい。

【村山教授】

最初の段階の条例づくり、計画づくりから食の循環によりまちづくりの取組に関わらせていただいている。食の循環による取組の一番のキーワードはつながり作りだと思う。食というのは、人間が自然とつながる時の核になるし、人と人がつながる時の核にもなる。自然とつながる、人とつながる時の鍵という意味で食は重要であると思う。

食の循環によるまちづくりは市外の色々な所から注目を集めている。パンフレットを見ていただくと、食の循環による応援団ということでたくさんの方からメッセージをいただいております。市外のあるいは首都圏の方から注目されている。今後はより市内の中で主体的な盛り上がり、運動を作っていくことが一つの課題であると思う。

食の循環はあまりに広いので、ターゲットを絞って運動していこうということで、昨年度は「モツタイ運動」を進めていき、協力店が100店舗になったと紹介があったが、お店の取組みと同時に今後は家庭の中により入っていく取組が必要と思う。

この食の循環の取組の一つとして幼稚園・保育園、小・中学校では食とみどりの新発田っ子プランとして学校関係で取組が行われている。私たちの大学では調査の委託を受け、この取組の評価を行っている。その中で、この3年間の取組で見えてきたものとして、小・中学校の子どもたちにおいては、非常に成果が見られている。データからも、特にモツタイという気持ちを持つ子どもとか、目標としている小6で主食・主菜・副菜がそろった1食分を作れる子どもとか、中3では小煮物(のっぺ)のある1食分を作れる子どもというのが非常に増えてきている。しかし、保護者の結果に変化が見られていないので今後の課題である。

委員会の中でも学校関係、小・中学校、高校、大学の委員の方が増えてきているので、

学校関係がつながることにより、子どもから家庭に入っていきようなルートをぜひ作って  
いけると良いと思っている。

私の友人が北海道でやっている取組として、農業高校で作った生産物、トマトとかを学  
校の給食に出している。それと同時に高校生が小学校でその説明をする。子どもたちから  
「何で牛乳は白いの？」とか色々な質問を受けて、高校生が勉強をしてそれに答えていく。  
そういった取組をして成果をあげている。学校間のつながり、世代間のつながりを深めて  
いけたら良いと思う。

米倉地区では、この事業のモデル地域として、循環が目に見えて体験できるような地域  
にして行こうということ、新潟大学が学生と共に関わり活動していこうという計画があ  
る。ぜひみんなで一緒に頑張っていきたいと思うのでよろしく願いしたい。

### (3) 役員選出について

#### 【事務局】

委員長、副委員長をそれぞれ1名、監事2名を選出することとなっている。互選してい  
ただければと思う。

#### 【X委員】

事務局の腹案をお願いしたい。

#### 【事務局】

(委員長) 下條莊市さん (副委員長) 佐藤ミネさん (監事) 津村賢さん、関根暁子さん

#### 【委員】

(拍手で承認)

#### 【事務局】

これから進行を交代するが、新しく委員長になられた下條さん、副委員長の佐藤さんか  
ら一言ずつお願いしたい。

#### 【下條委員長】

食の循環によるまちづくり事業は市の基本構想にも載り、重点的取組として位置付けら  
れている。また、常に思っていることだが、形が見えにくい事業である。非常に精神論的  
な部分が強く反映しているので、何かすれば、形が見えてくるということではない。それ  
を委員でまとめていこうということ、難しいものがあるが、精一杯やらせていただくので  
よろしく願います。

この委員会は3年目になるが、先程、村山先生からキーワードはつながりという良い言  
葉を聞いた。この各種団体や市民代表の方々の考えを、一つ一つつなげていくことによっ  
てこの事業の食の循環は輪になっていくような、少し明るい意見を拝聴したと思っている。

#### 【佐藤(三)副委員長】

常に食生活改善推進委員協議会として食の問題について色々勉強をしているので、役  
が回ってきたと思っている。精一杯委員長を補佐して頑張りたいと思うのでよろしく願  
います。

(4) 平成23年度事業報告及び収支決算について

【事務局】

(資料P3～5「平成23年度 新発田市食の循環によるまちづくり推進委員会 事業報告書」)

(資料P6「平成23年度 食の循環啓発事業 収支決算書」)に基づき説明

【X委員】

会計監査の結果、収入支出とも適正であり、正確に処理されていたことを確認した。

【委員】

(拍手で承認)

(5) 平成24年度事業計画案及び予算案について

【事務局】

(資料P8「平成24年度 新発田市食の循環によるまちづくり推進委員会 事業計画(案)」)

(資料P9「平成24年度 食の循環によるまちづくり推進委員会事業収支予算書(案)」)に基づき説明

【X委員】

先日、長岡市の学校で生協主催の食育出前授業があり、その講師をしてきた。学年授業として行ったので保護者も参加しており、保護者へのアプローチもできたと思う。また、昨年食育推進課に生協とのタイアップを提案したが返答がなかった。経費的にも厳しい現状なので、経費も負担してくれる外部団体の食育事業を活用してみてもどうか。

【下條委員長】

事務局いかがか。

【事務局】

現在学校では、栄養士が中心となってTT(チームティーチング)方式で食育の授業を行っている。星野委員からご提案いただいた内容については前向きに検討させていただきたい。

【下條委員長】

事業計画の実施時期について具体的な案はあるのか。

【事務局】

8頁をご覧いただきたい。まずリレートークについて、年3回開催予定で、第1回目の教育分野では中村文昭氏を講師として8月22日に開催予定。第2回目の健康分野ではマロン氏を講師として10月27日に開催予定。当委員会開催分としては永島敏行氏を講師として大使交流イベントと同時開催で予定をしている。平成24年度事業の細部については小委員会形式などをもってご検討いただきたいと考えている。

【下條委員長】

まだまだ事務局の腹案段階で詳細は別途検討するということである。この委員会で重点として進めている取組としてモッタイナイ運動があるが、今後の対策として考えていることはあるか。

【事務局】

二階堂市長も積極的に広報マンとしてモットイナイ運動を宣伝している。北信越市長会で市長がモットイナイ運動を宣伝したところ、小千谷市長から、小千谷市周辺の地域では宴席で「祝い唄天神囃子」の歌が始まるまではお酌に回らないという慣習があると紹介があった。こういった事例をヒントとして委員会の皆さまのご意見を頂戴しながら新たな仕掛けを提案したい。

【H委員】

この委員会は 3 年目を迎えるが、計画内容が昨年度と同じである。新規事業の提案はないのか。

【事務局】

このまちづくりは理念的な部分が先行をして、具体的な取組が分かりにくいという一面がある。今年度は「食の循環」における『料理をつくる』ということが市内で定着していくような取組を進めることとして、全市の料理教室の開催状況を把握し、料理教室を一つ核とした取組を進めたい。

【I委員】

食の循環によるまちづくりが大変良い取組であることをパンフレットを見ながら改めて感心している。食の循環の7つの段階が回ることがすごく面白い。新発田のまちはどういうまちかを考えていかなければならない。この取組は環境保全にもつながる。モノをつくる人達、地元のモノを食べる消費者。例えば、星野さんのアスパラガスは生で食べても美味しい。料理過程で出た生ごみを肥料にすることが面白い。リレートークを 24 回も開催しているが、まだ食の循環によるまちづくりが浸透していないというのは残念な結果である。今重点を置かなければならないのは、リレートークなのか、肥料づくりなのか。もっと分析することが必要だと思う。今年度はすでに計画ができているのでこれで進めることとして、次年度に向けて分析と提案が必要だと思う。

【下條委員長】

今の意見を念頭に置きながら事業を進められると良い。

【新保教育部長】

人と人とのつながり、その中で事業が生まれたりする。情報の交換が不足している。戦略性が乏しい。求心力が必要。それについて職員に検討をさせている。本日、皆様方からのご意見をお聞かせいただきながら検討をしたい。

【E委員】

「産業の発展」の分野で委員として出席しているが、高校が委員として入ることで、高校に期待することは何か。例えば、食の循環パンフに掲載の商品開発、家庭科授業でのモットイナイ運動の推進、キャラクターめぐるを文化祭で活用する等、食の循環を推進する上でできることは思い浮かぶものの、何をしたら良いのか分からない。

【事務局】

新発田農業高校、新発田商業高校の 2 校については、今年度から新規で委員として加わっていただいた。農業高校、商業高校、南高校の 3 校の実業科で県の事業に取り組んでいること、敬和学園大学による赤谷地区での動きや商店街でのカフェ運営など、食の循環に

よる取組が芽吹き始めている。それらを他の委員の取組とつなげること、または情報交換により新たな取組が生み出されることを期待している。

【U委員】

8頁(5)食の循環ロゴマークとイメージキャラクター「めぐる」の普及について、米倉地区では農産物を生産しているが、「めぐる」のシールを貼る等はないものか。どのような内容であれば「めぐる」のシールを貼れるのか。

【下條委員長】

食の循環の農産物であれば、「めぐる」のシールを貼ることも良いのではないかという提案である。

【事務局】

食の循環によるまちづくり推進計画に、今ご提案いただいた事業が計画されている。(36頁 15 食の循環農産物推奨事業)早い段階で実現できるように仕組み作りを進めたい。6月16日、17日に第7回食育全国大会が横浜市で開かれる。新発田市も出展し、食の循環によるまちづくりの取組と、小・中学校での食育の取組の紹介をする予定である。その際、めぐるのシールも配布をする予定になっている。農産物が食の循環で栽培されたことが分かるような仕掛け作りが次の段階であると思う。

【O委員】

生ごみ分別を、自分達の地域だけではなく、全市に拡大できるよう期待している。小・中学校も全校では取り組んでいないということ。学校では水切り分別をしているが、家庭ではしていないという子どももいる。自分の地域でも最初はやりたくなかったが、自分が捨てたゴミが食べ物になり、食卓にのっていることが分かったら、そのためにこれまで以上に地場産を食べようという気持ちになった。小学校でも取組を拡大しながら、地域での取組も拡大していくことが必要。自分達も協力するので是非拡大して欲しい。また、食の循環パンフレットに子ども達の声が掲載されているが、もっと大々的に発信し大人を変えていって欲しい。

【事務局】

今年度は学校4校において新規に実施する予定である。

【X委員】

これまでも「つながり」という言葉は出ているものの、また委員としてウオロクさん、たわら屋さん、食生活改善推進委員さんがいるにも関わらず、有機的なつながりによる商品開発に予算がさかれていない。決して中食という観念が悪いとは思わない。専業農家は、農作業がある時には自分たちで食事を作ることは不可能であり、中食に助けられている。それを担っているのが事業者の方たちである。各委員が連携できる体制を示して欲しい。

【村山教授】

まさに言おうとしていたことを星野さんが言ってくれた。各委員が何をしたら良いかということは、事務局から言われることではない。自然発生的に醸成されるもの、生まれてくるものである。委員全員で何かしようとしても難しいので何人かで集まって検討するのが良いのではないか。実際には米倉地区で進んでいる。そういう場を作っていくということについて同感である。



【下條委員長】

小委員会を作って揉んでいけば良い会になる。

【事務局】

委員には行政の代表も出席している。各部課に持ち帰ってもらい検討してもらおう。

【下條委員長】

平成 24 年度事業計画及び予算案について、他にご意見がなければご承認いただけるか。

【委員】

(拍手で承認)

( 6 ) その他

【下條委員長】

小委員会について、立候補はあるか。

【村山教授】

小委員会は事業計画に記載の事業内容を検討するのか。

【事務局】

まず一つは、事業計画の具体的な内容を検討する。また、先ほどご提案いただいた新規事業提案プロジェクトを立ち上げるための、テーマについての検討も併せて行う。

【下條委員長】

いかがか。

【U委員】

参加したい。

【P委員】

事務局の腹案をお願いしたい。

【事務局】

4 広岡委員、 5 高橋(聖)委員、 7 山田委員、 8 藤田委員、 11 木戸委員、  
12 佐藤(ミ)副委員長、 17 金田委員、 19 肥田野(由)委員、 25 宮島委員、 26 高橋(賢)委員、 30 川本委員、 31 津村委員、 25 下條委員長、 38 関根委員の計 14 名。

【下條委員長】

よろしくお願いしたい。

小委員会の予定についてお願いしたい。

【事務局】

6 月末頃の開催で予定している。

【下條委員長】

本日の話し合いの内容をおさらいしてから、推進委員会のあり方も含めて今後のことを検討することをお願いしたい。

#### 4 その他

##### 【下條委員長】

何か他にあるか。

##### 【U委員】

6月30日に米倉有機の里交流会でホタル観賞会があるのでご参加いただきたい。環境に配慮した農業を進めており大変綺麗なホタルが見れる。また市民農園へもお立ち寄りいただきご意見をいただきたい。

##### 【事務局】

(ユ- & ミ-の会の取組紹介について資料を配布し説明)

##### 【下條委員長】

第1回目の推進委員会として様々なご意見を御出しいただき活気のある会であった。これからもよろしくお願ひしたい。

#### 5 閉会